

2018/04/22

「リハビリ中」

■人は単独で存在できない

人間は、神に似せて造られました。「似せる」とは、三位一体の神と同じ関わりを持つ存在として造られたということです。

三位一体の神は、単独では存在できません。それぞれ個別の位格（人格）を持ってはおられますが、互いの存在の中で互いが関わることに於いて、神という一つの存在ができあがっているのです。その神に似せて造られたということは、人も神と同様に関わりがなければ存在できないということです。三位一体の神が互いを必要とするように、私たちは神を必要とする存在なのです。

三位一体の神の関わりを、聖書では愛と言います。愛とは、互いが一つの思いを共有して結びつこうとする運動のことです。私たちの中にも愛があり、その愛の衝動によって、神と結びつこうとする運動が起きます。これが信仰です。誰もが生まれながらに信仰を持っているのです。救いとは、新たに信仰をいただくことではなく、これまで持っていた信仰が真の神に軌道修正されたということです。

この世の中で、単独で存在しているものはありません。植物は、水と太陽と養分を必要としているし、細胞は電子が飛び回ることによって互いに関わり、一つの物体を作っています。人も、単独では存在できず、神と関わり、人と関わることで初めて人となるのです。

「私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。」（使徒 17:28）

■「愛」の迷走

神は初めにアダムとエバを造りました。彼らは神の国で神と一緒に暮らしました。ふたりは神に似せて造られたので、彼らの中には神と同じ愛がありました。つまり、それは神と結びつこうとする信仰です。彼らは単独では存在できないので、いつも神と共に暮らしていました。神の別名は、永遠のいのちであり、神と共にいる彼らも永遠のいのちを持っていました。人は、永遠のいのちを持ち、彼らの中にある愛は神を慕い求め、アダムは神を愛しエバを愛しました。エバも神を愛しアダムを愛しました。「愛には恐れがありません」と聖書にある通り、彼らは自分達が裸であっても、恥ずかしくありませんでした。愛しか存在しなかったからです。愛は恐れを締め出し、互いに愛し合います。彼らの愛は、神を愛し人を愛し、神を信頼し人を信頼しました。ですから、そこには、失望も死もなく、希望だけが存在しました。彼らの中には永遠のいのちしかありませんでした。これが人間の本来の姿です。

ところが、悪魔が蛇を使って二人に罪を犯させ、神との結びつきを壊してしまいました。

こうして、人は、神との関わりが断たれ、悪魔との関わりが始まりました。悪魔の別名は、死であり、人は死の世界に移されて、死の関わりの中で、死の恐怖を持って生きようになりました。関わる相手が替わり、神の国から悪魔の国に、すなわちいのちの国から死の国に移ったのです。こうして私たちは、死の恐怖という関わりの中で生きようになりました。

その結果、人の中にあつた愛は迷走を始めました。愛は、今まで神と結びつくことで愛するという機能を発揮していたのですが、死の世界では神との結びつきがありません。そのため、愛は、別のものと結びつくようになりしました。それは、人や富です。こうして人は、人との結びつきを求めて、人から愛されようとし始めました。人から愛されるためには、相手の期待に応えなければなりません。私たちは、本当の自分を捨て、相手の期待に応えようとするようになりしました。しかし、愛されようと努力をしても、相手が認めてくれないと、愛は憎しみに変わりました。愛されようとすることによって、人と自分を比べるようになり、愛は嫉妬に変わりました。このように、愛が様々な形に変わったことが私たちを苦しめ、本来の自分を失ったために、心は病み、ストレスから快樂をむさぼるようになりしました。愛は迷走を始め、どうにもならなくなってしまったのです。

■リハビリ中

今、私たちが本来の姿と違っているのは、本質が変わったわけではなく、関わる相手が変わったことによるものです。人の本質には、神を愛するという愛しかないのですが、神との関わりを失ったために愛する対象を失い、愛は迷走を始めました。神との関わりが死の恐怖との関わりになり、愛は憎しみに、信仰は偶像礼拝に、希望は失望に変わってしまったのです。それは、人が今まで経験したことのない感情です。そんな中、私たちはイエスと出会い、信じることができるようになり、再び神との関係を回復して、死からいのちに移されたのです。

「神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。」

(コロサイ 1:13-14)

死の世界では、罪は裁かれます。しかし、私たちは、神によって死の圧制から、イエス様が支配するいのちの国に移されました。死の恐怖と関わっていた時には、憎しみという形だった愛は、イエス様と関わるようになって、神を愛し人を愛する方向に変わりました。偶像礼拝は神への信頼という方向に、失望は希望という方向になりました。

今私たちは、この世界で、本来の自分の姿に戻そうとするリハビリ中なのです。古典的な聖書理解の一つに、人は罪によって墮落したと考える説がありますが、聖書に人が墮落したという記述はありません。人はもともとダメな存在でも、墮落して悪くなったのでもなく、本来の良き者からまったく変わっていないけれど、関わる相手によって変わってしまったのです。ですから、関わる相手を神に戻せば、私たち自身も元の姿に戻すことができるのです。

これが福音です。

これらのことが理解できると、次のことがわかります。

1. 人は一貫して良きものであり、神の栄光を表している

私たちが神の姿を現していることは、一貫して変わっていません。誰と関わるかによって、生き方や考え方が変わるだけであって、人の本質はまったく変わらないのです。

もしあなたがアメリカで生まれていたら、英語を話し、まったく違う考え方をしていたでしょうが、あなた自身が変わることはありません。神の栄光を表すという土台はまったく同じです。私たちは死の世界で生きていたために、確かに死の世界の考え方を持っていました。が、神の世界に移され、いのちに移されたことによって、もとの土台は息を吹き返し、本来の姿を取り戻すことができるようになりました。今は、そのリハビリ中ということです。

「遊女と交われば、一つからだになることを知らないのですか。「ふたりは一体となる」と言われているからです。しかし、主と交われば、一つ霊となるのです。」

(I コリント 6:16-17)

あなたが何と関わるかによって、あなたの生き方は変わります。死の世界で悪魔と関わるようになってしまったために罪を犯すようになりましたが、神との関わりの中に移されたことによって、今度は神と同じようになっていくのです。

聖書が一貫して教えているのは、人は神の栄光を表しているということです。聖書は今も、人は墮落ではなく栄光を表していると教えています。

「男は神の似姿であり、神の栄光の現れだからです。女は男の栄光の現れです。」

(I コリント 11:7)

この御言葉が教えていることは、男も女も神の栄光を表しているということです。

「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。」(II コリント 3:18)

私たちは主と交わることによって、栄光から栄光に変わります。ダメな者から良い者になるわけではありません。人は皆、神の似姿であり、良き者なのです。私たちは今、死の恐怖の関わりによって身につけてしまった考え方を、神の国の考え方に戻すリハビリをしているところであり、本来の神の姿を取り戻そうとしているところなのです。

2. 罪人を受け入れなさい

「罪と戦う」とは、罪を排除することではなく、罪人を無条件に受け入れることです。

「遊女と交われれば一つからだになる」と聖書は教えますが、死の世界に生きて悪魔と交わったために、私たちは罪を犯すようになりました。罪を犯すようになったのは、私たちの本質である愛が行き場を失ったためです。ということは、もし、罪を否定してしまうと、自分自身を否定することになります。罪は病気なのですから、人を拒否するのではなく、病気がいやされて元の姿に戻るようになればよいのです。

つまり、私たちに必要なのは、回復であり、癒しです。今間違っている自分を否定するのではなく、本来の働きに戻すことが必要です。私たちはもともと神の栄光を反映する存在です。自分を否定するということはその土台を否定するということです。この世の罪によって泥がついたために、私たちは神の栄光をぼんやりと映す存在になってしまいました。しかし、神様によって泥が取り除かれると、すべてがはっきりと見えるようになります。

私たちは皆、死の世界での関わりによって泥で汚れてしまっています。そして、お互いにお前はダメだと裁き合い、自分で自分を拒否していますが、神様は、間違った環境によって泥がついたことをご存知なので、罪人を裁いたりはなさいません。そして、私たちにも、裁くのではなく、受け入れなさいと教えておられます。

人は皆、自分の罪を隠したがりです。それは、本当の自分を愛してくれる人など誰もいないと思うからです。私たちは、汚い自分を隠して、外側をきれいに見せようと必死になります。すべての人がそうです。本当の自分が見つかることを恐れて、隠して、苦しんで生きています。しかし、神はあなたが良き者であり、神の似姿だと知っていて、罪は神を愛したい愛が暴走してしまったに過ぎないことを知っておられます。神は誰も裁かず、愛し、受け入れられます。イエス様と出会うなら、私たちは、イエス様はこんな自分を愛してくれるということを知るのでした。

聖書の中に、姦淫の現場で捕まった女性の話があります。人々は、「このように罪深い女は石を投げて殺すべきだ」と言いましたが、イエス様は、「この中で罪を犯したことの無い人から石を投げなさい」と言われました。すると、結局誰も石を投げられませんでした。皆同じ罪人だからです。イエス様は、その女性を責めずに、受け入れました。その女性は、初めて、本当の自分、今まで誰にも見せたくなかった自分を受け入れてくれる方がいることを知り、立ち直ることができるようになったのです。

私たちの愛は、神に愛されているということに気づくと、憎しみから愛に戻るのです。しかし、暴走した自分を、自分で否定してしまえば戻ることはできません。このような間違った形で神に復帰しようとしてしまうと、パリサイ人のように、行いで立派なクリスチャンであることを証しようとして、裁き合うクリスチャンになってしまいます。

神様は罪人を招き入れたいのです。なぜなら、人は神の似姿であり神の栄光を表しているからです。たとえ、この世界ではその姿になっていなくても、問題ではありません。神があなたから泥を取り除いて元の姿に戻すことができるからです。これが福音です。

「イエスはこれを聞いて、彼らにこう言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

(マルコ 2:17)

イエス様は、積極的に世の中から捨てられた罪人と交わりました。ですから、私たちは罪人を拒否してはいけません。つまり、まずあなた自身を拒否してはいけません。神は、あなたの罪を全部赦し、あなたを受け入れておられます。信じがたい話ですが、このことを受け入れると、あなたは自分を受け入れることができるようになり、周りの罪人を受け入れることができるようになります。自分を受け入れられなければ、人を受け入れることはできません。神があなたを受け入れておられますから、あなたもそれを受け入れましょう。

3. 神様と積極的に交われば良い実を結びようになる

悪いものと交われば悪い実を結びますが、良いものと交われば良い実を結びます。人は関わりがなければ存在できません。私たちは、神の国に移されたのですから、これからは積極的に神と交わろうと決心しましょう。そうすることで、私たちの持っていた憎しみは愛に戻り、信仰は偶像礼拝から神に戻り、失望は希望に戻ります。アダムとエバが神と暮らしていた最初の状態に戻ることができるのです。これが、リハビリ中だという意味です。

もし、今どこかの国に移住したとしたら、大変なカルチャーショックを受け、まず言葉を覚えるのが大変になることでしょう。日本語に慣れた舌は、現地の言葉をうまく話すことができません。それでも、一生懸命交わることで、うまく発音できなくても、なんとか意思を伝えられるようになっていきます。

神の国に移された私たちも、神のことばを覚えていかなければなりません。この時、積極的に交わる人もいれば、あきらめて自国の人とばかり交わる人もいます。自国の言葉だけを使っていたのでは、新しい言葉を覚えることはできません。あなたは、神の国のことばをしゃべろうとしているのでしょうか。神の国の考え方を身に着けようとしているのでしょうか。それをしない限り、いつまでも古い死の世界の言葉や物の考え方に縛られて、愛は、憎しみや偶像礼拝や失望のままになってしまいます。しかし、神の国の言葉を覚えれば、変わります。せっかく神の国に移されたのですから、積極的に神の国の交わりをしましょう。交わることで、あなたの中に本来あった花を咲かせることができるのです。これが栄光から栄光へと変えられるということです。

積極的に神と交わるポイントは、次の3つです。

1. 祈る・・・神との交わりの第一は祈りです。
2. 御言葉・・・御言葉を読み、メッセージを聞くことです。
3. 弱いもの小さいものを大切にする

「すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』」（マタイ 25:40）

人は、強いものと交わろうとしたがりますが、それは、神との交わりではありません。神との交わりはこの世界とはすべて逆です。神は弱いところにおられ、弱いところに働かれます。ですから、弱いところと交わると、神と交わることができるのです。この世で否定されるもの、見捨てられるもの、弱いものを大切にすることは、神を大切にしているということです。

私たちに必要なのは、神様との積極的な交わりです。リハビリによって、神の考え方に変わり、正しい方向に愛が向くようになります。私たちはリハビリ中であることを理解し、積極的にリハビリに取り組めれば幸いです。